

MOBILE SUIT VARIATION **MSV**



Mobile Suit Variations Model Series

1/144 Prototype Gundam



<https://gunplastory.com/>



© 前通リサンライズ パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。 Illustration by Kenichi Ishihara

RX-78-1 PROTOTYPE GUNDAM

MOBILE SUIT GUNDAM/MOBILE SUIT VARIATION No.8 RX-78-1 PROTO TYPE GUNDAM

MOBILE SUIT
GUNDAM
機動戦士
MOBILE SUIT VARIATION
MSV
BANDAI

1/144 SCALE MS-7002
RX-78-1 PROTO TYPE
GUNDAM
プロトタイプガンダム

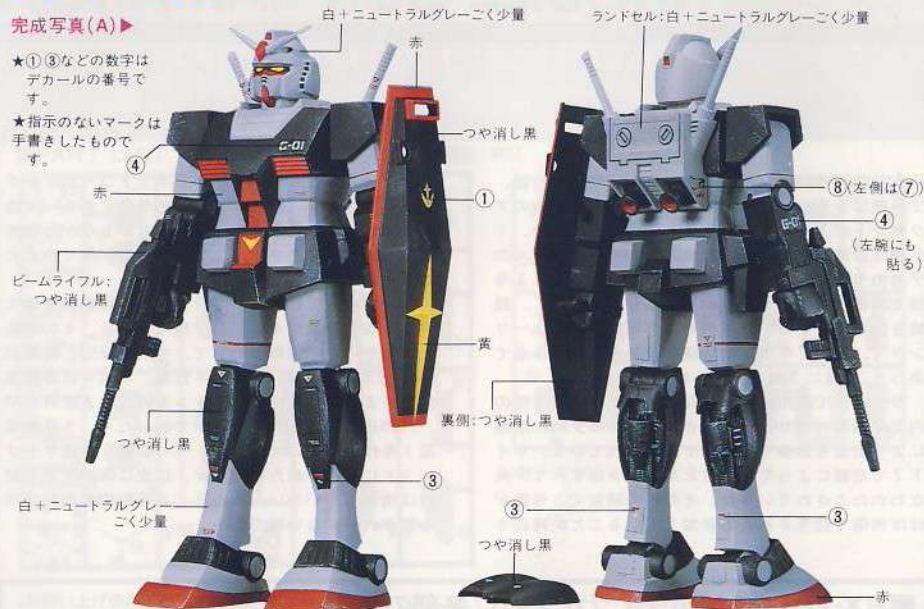


■完成写真(A)(B)いずれか選んで塗装してください。
■基本色は、つや消し黒と、白にニュートラルグレーをごく少量混ぜた色と赤の3色です。この3色と黄色を塗りわけたあとシルバーで軽く汚し塗装をしてあります。つや消し黒以外の色にはフラットベース（つや消し剤）を入れるとよいでしょう。
★この塗装図は印刷物のため、指示の色と多少異なる場合があります。

完成写真(A)▶

★①③などの数字はデカールの番号です。

★指示のないマークは手書きしたものです。



▼完成写真(B)

■基本色は、コバルトブルーにスカイブルーを混ぜた色と、白にルマングリーンをごく少量混ぜた色と赤の3色です。この3色と黄色、つや消し黒を塗りわけたあと軽く汚し塗装をしてあります。つや消し黒以外の色にはフラットベース（つや消し剤）を入れるとよいでしょう。

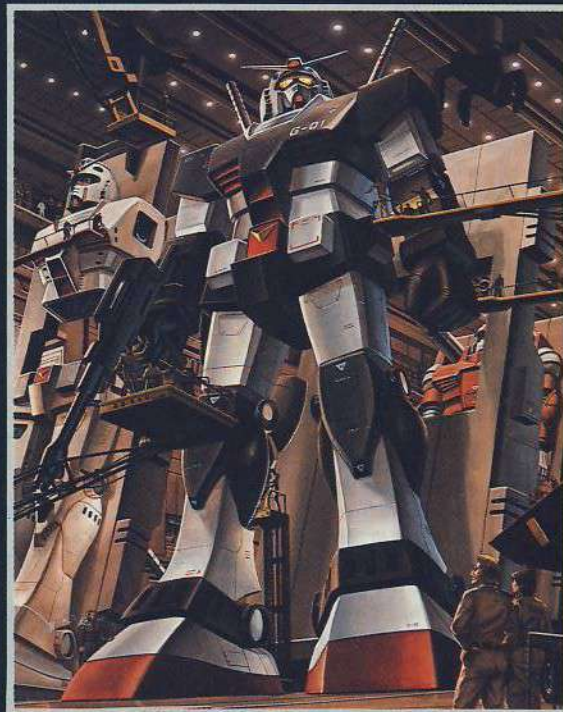


★余ったデカールは自由に使うください。

MOBILE SUIT VARIATION

RX-78-1 機動戦士 ガンダム PROTOTYPE GUNDAM

RX-78-1プロトタイプガンダム/解説書



1/144 SCALE モビルスーツバリエーション

BANDAI

RX-78-1 PROTOTYPE GUNDAM

■モビルスーツバリエーションNo.8
RX-78-1 プロトタイプガンダム

MOBILE SUIT VARIATION

■解説/ストリームベース・小田雅弘

●地球連邦軍RXモビルスーツの系譜

連邦軍がAAAとしてMS開発に着手したのは、大戦勃発後間もないUC77-7月であった。10年の遅れを持つと言われたMS技術を克服する事は容易では無く、依然走行重装甲の域を出る物では無かったのである。その開発の系譜の中で連邦に幸いしたのは、脱出システムとして機体の中心となるコアファイターによる所が大きい。つまりこのコアを共通にして、各種種へ換装が可能であり、一機種における実戦時の部分交換、修理を容易にした点であろう。また何より搭載された教育型コンピューターによって機体とパイロットの練度が高まる（同率）のはジオンのザクとは大きな違いである。

脱出システムたるコアファイターの開発の持つ本来の意義は、ジオンのモビルスーツと交戦した際のデータ収集にある。搭載コンピューターのデータ処理と回収後の研究は切実な物であり、パイロットの救出と同時に生産数に及ばないモビルスーツを失う事は、大きな意味を持つ。記録を残すためにはパイロットと交戦データの回収が最優先であった。二重のメリットを持つコアブロックは、当初のモビルスーツであるRX-75より搭載されていた。とは言っても閉鎖式コックピットでの操縦には問題があり、ザクによる上陸作戦以来陸戦でのモビルスーツ戦に対象を絞っていた事もあって、このRX-75には別設置でコックピットが取り付けられる事になる。モビルスーツザクに対処するためには、やはり二足歩行式MSしかなく、続く77タイプ、78とザク型がとられている。もっとも75式から77式へ移行するまでは数多くの研究が行なわれ、回収されたザクの残骸から除々に分析が成された結果でもあった。

コアブロックを共通にしたまま開発を進めておいた事が、先にも述べた様に連邦に最も幸いした事であり、多用途化を計る上で、新設計のMSでなく、他機種へ変換する事がなかったのである。RX-77についてはRGC-80について触れているので、ここでは祖たるRX-75について追ってみよう。RX-75通称ガンタンクは、本来MSとしてではなく、MSに対処できるAFVとして開発が進められた物である。その母体は何らAFVと変わる物ではなく、およそMSの原型と呼べる代物ではない。しかしながらコアブロック構想の参入によりMS化の色彩が濃くなっていった。

コアブロック搭載による原型は77年にはすでに完成し、その後2回の改造によって量産先行型RX-

75として承認されている。内2号機から4号機はAAAとしてサイド7に運ばれていたが、すでに空間戦の使用に足る物ではなかったと記録されている。結局は先行型7機を数えてRX-75は生産を中止したが、MS化を再度捨てて、重装甲陸戦車として再認識されている。コアブロック構想外として、MS部隊の陸戦オペレーション時に支援を行なう移動要塞の要素を満たす物である。RX-75ではMS化も手伝って複座から単座化されたが、新たな要請によるこのタイプは、三座（上部1名、下部2名）式を採用した。但し量産化は間に合わず、計6機が、北米と中央アジアへ配備された。ガンタンクの量産型として、このタイプはRMV-1の型式番号が与えられている。

RMV-1がAFV型の発展であるのに対し、対MS戦でザクを上回るべく高機動MSの開発が77タイプを経て成功する。兵装と防御システムを最低単位に分離したRX-78タイプである。RX-77タイプでは重火器の固定武装化が尾を引いていたが、この78タイプの構想に連邦MS概念の昇華をうかがい知る事ができよう。接近戦を考慮してビームサーベルを装備し、頭部には77に続いて60ミリ機関砲を有し、交換性装甲の解釈としては原典たるシールドを持つ事が出来、メインの武装にはビームライフル、オプションで380ミリバズーカが使用可能という物であった。開発の上で手間取ったのはビームライフルで、これを除いては順調に試作がすすめられた。原型1号機には徹底した軽量化が計られ、続く2、3号機と共にサイド7へ運ばれた。宇宙空間での戦闘に堪えらるべく、腰には冷却ユニット等が設けられ、大気圏突入能力もあわせて与えられている。これはAAAのベガサスとの連携での実験科目としてにすぎず、実際の量産化計画には含まれていない。

1、2号機には同仕様の改修が施され、（ジャブローで工作終了）テストは順調に行なわれた。当初はビームライフルの腕への一体化が考慮されストラップ付きのハンドショットガンスタイルのビームライフルが実験に使用され、右腰にはそのためのホルスターが設けられていた。遅れてサイド7に運ばれた3号機からは簡略化（と言うより無駄の整理）がさらに計られ、ビームライフルの外部形式も3号機仕様にあためられたので1、2号機は間もなく3号機仕様へ若干の改造を受けている。この間の塗装の変遷は仲々興味深い物である。ジャブローでロールア

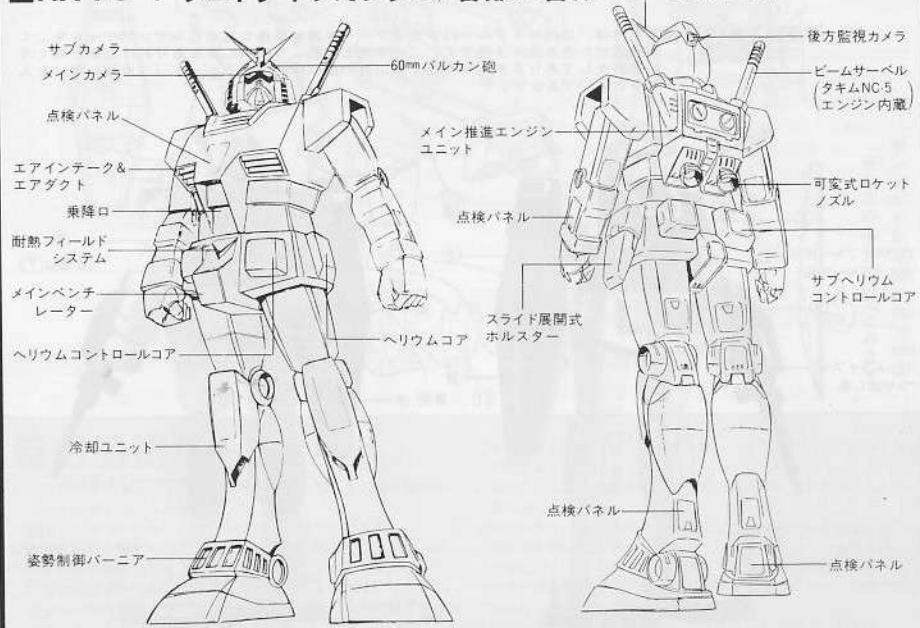
ウトした1号機はシルバー地に黒で塗り分けられ、2号機はシルバー地に白の塗り分けて2機共赤のアクセントが入っていた。サイド7へ運ばれた後、1号機は白地に青と赤のアクセントでトリコロールのデモカラーとなっている。2号機は当初銀地に1号機と同様（青の部分のみ赤）の塗り分けを経て、銀地を白にしている。3号機もこれと同様のカラーリングで、1、2号機は改修後もデモカラーのままであった。（後に3機共カラー統一）

サイド7で実用試験を行っていた1～3号機の内2号機はベガサスへ搭載され、アムロ少尉の活躍により戦後も数多くの功績が認められている。サイド7で奇襲によってRXモビルスーツはすべてが失われたとされているが、その後の調査で3号機がほぼ無傷で発見され実戦参加していることが確認さ

れている。星一号作戦の際マグネットコーティングを受けたとあり、機体をグレーとライトグレーで塗り分けた写真も発見されている。しかしながら機体は2号機同様発見されず、アムロ少尉が乗り換えたとする説も強い。

ジャブローで製作されたRX-78の総数は8機で、内1～3号機はサイド7へ、残り5機は、その機能と形状から初期試作型として、中間武装型、後期試作型（3号機仕様）と区別される。これらはほぼ素体のままで種々の冷却システムを持たぬままRGM-79の母体となった。改修中であった4、5号機は星1号作戦においてホワイトベース級2番艦サラブレッドに搭載されたところだが、正式に確認できる資料は現存していない。また6～8号機の参戦記録等も残されていない様である。

■RX-78-1 プロトタイプガンダム/各部の名称



MOBILE SUIT VARIATION

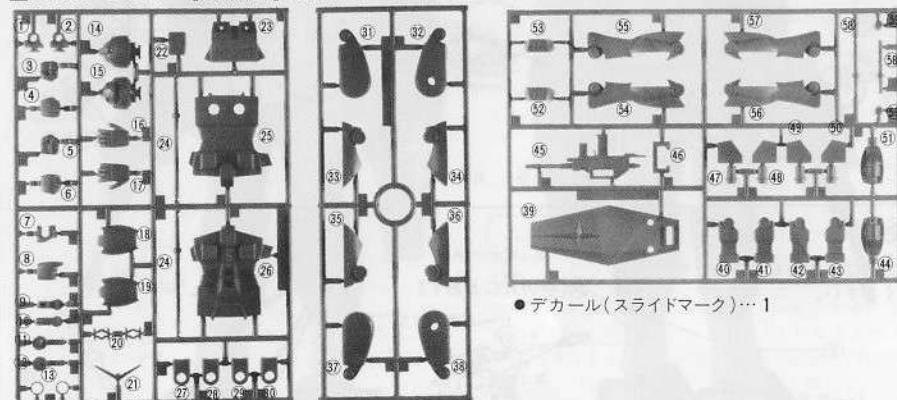
MSV No.8

機動戦士ガンダム
RX-78-1

PROTOTYPE GUNDAM

■MSバリエーションNo.8プロトタイプガンダム/組立説明図

■PART LIST [使用材質]＜成形品＞(スチロール樹脂:PS)



●デカール(スライドマーク)…1

《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした時は「部品注文カード」に必要な部品の記号/番号/数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。)にて下記までお申し込みください。代金は、部品代(1個40円×個数)+郵送料(120円)です。為替証書は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じることがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12 TEL054-208-7520

For Japanese use only.

部品注文カード

83.06/01311-400

機動戦士ガンダム MSV
1/144 プロトガンダム

必要な部品の記号・番号・数量を書く

●注文された理由(○で囲む)(こわした・なくした)
日中ご連絡可能な電話番号

《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 実線の矢印(→)は接着するところ、点線の矢印(---→)は接着しないところ。接着するところは×印がついています。

注意

必ずお読みください

- とがった部品がありますので、8才未満のお子さまには絶対に与えないでください。
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 接着剤は、閉めかけた室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

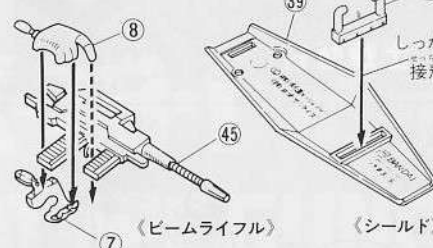
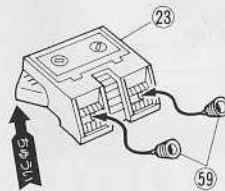
このキットには、接着剤は入っておりません。プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

1

《武器の組み立て》

※図中、実線の矢印(→)は接着するところ、点線の矢印(---→)は接着しないで、はめこむところです。

《ランドセル》



2

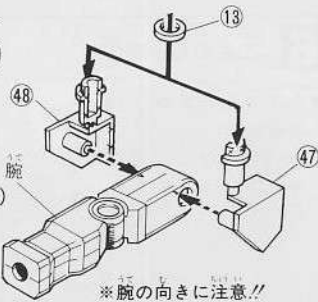
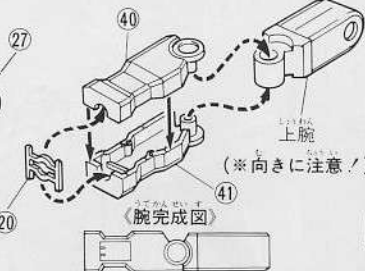
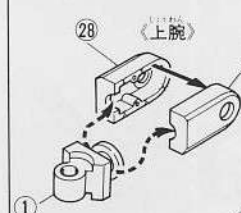
《左腕の組み立て》

●上腕と20をはさんで、40を41に接着します。

●腕をはさんで47を48に接着します。

●①をはさんで28を27に接着します。

※完成図をよく見てください。



3

《右腕の組み立て》

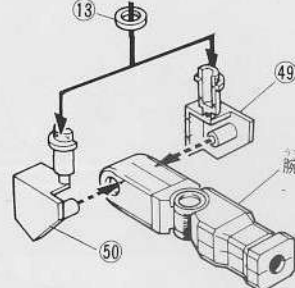
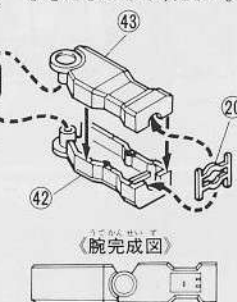
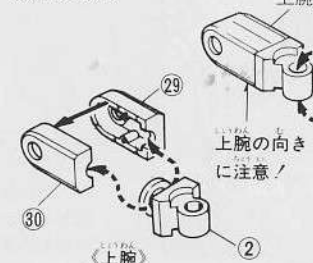
●上腕と20をはさんで、43を42に接着します。

●腕をはさんで49を50に接着します。

●②をはさんで29を30に接着します。

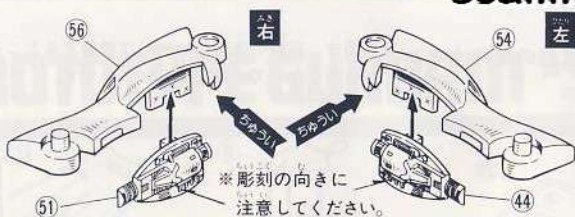
※完成図をよく見て、部品の向きをたしかめてください。

※腕の向きに注意してください。



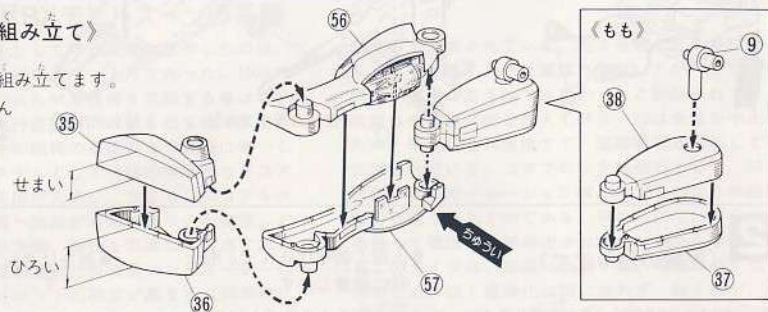
4 《足の組み立て》

- 56に51、54に44をしっ
かり接着します。
- ※51と44は形が似ていま
すから、まちがえない
てください。



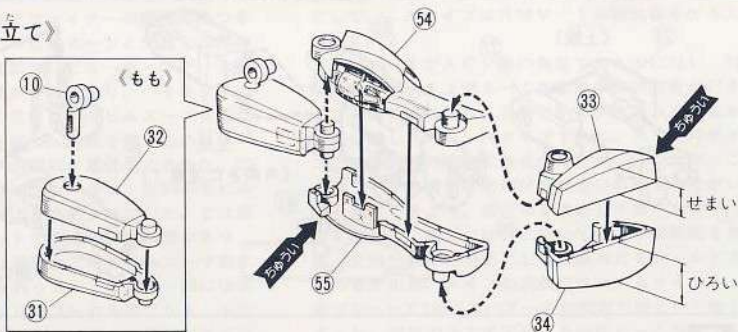
5 《右足の組み立て》

- 先に"もも"を組み立てます。
- "もも"をはさんで56を57に接
着します。

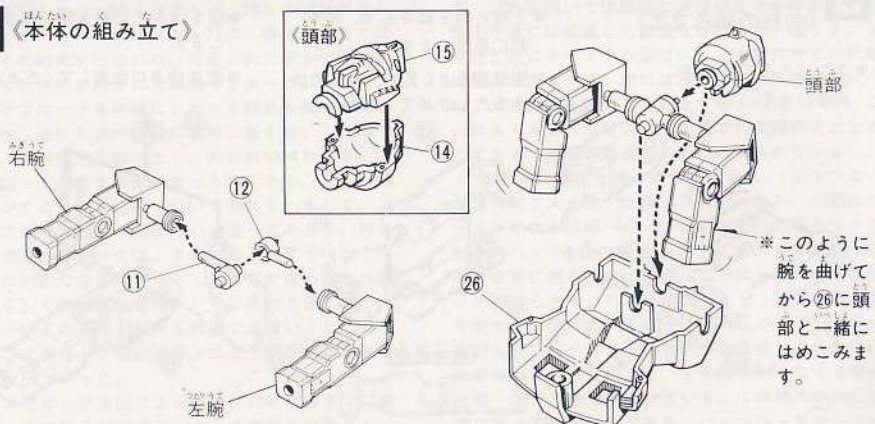


6 《左足の組み立て》

- 先に"もも"を組み
立てます。
- "もも"をはさんで
54を55に接着しま
す。

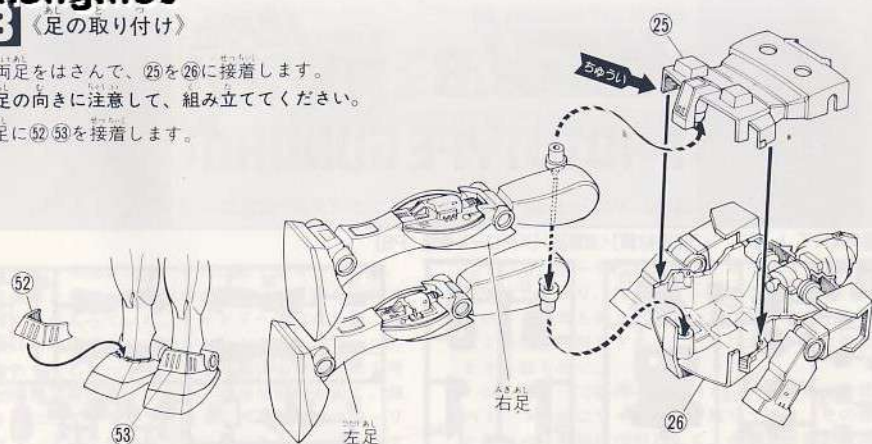


7 《本体の組み立て》



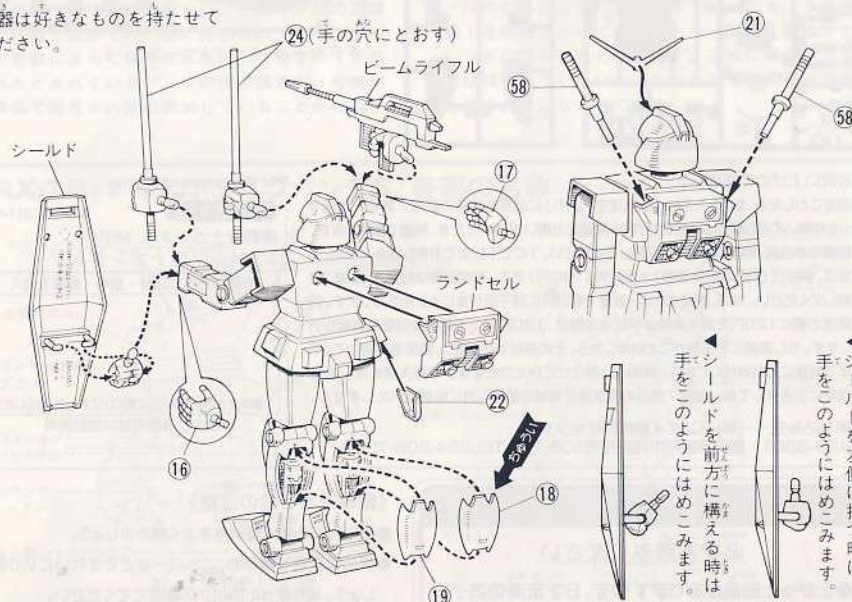
8 《足の取り付け》

- 両足をはさんで、25を26に接着します。
- ※足の向きに注意して、組み立ててください。
- 足に52・53を接着します。



《完成》

- 武器は好きなものを持たせて
ください。



デカールの貼り方

- ①デカールを貼る場所の、ほこりや汚れ、油気を、ぬらした布で良くふきとってください。
- ②貼りたいデカールを、ハサミかナイフで切りとります。
- ③貼る場所を確かめてから、ぬるま湯に5秒程つけて引き上げタールなどの上に置きます。あまりながくつけていると、のりが落ちてデカールが付きにくくなりますので注意してください。特に小さい文字などはぬるま湯につけたらすぐ引き上げるぐらいにしてください。(ピンセットを利用するとよいでしょう。)

- ④マークを台紙からずらしながら貼ってください。(ピンセットを利用するとよいでしょう。)
- ⑤指先に少しぬるま湯をつけ、デカールをぬらしながら正しい位置に貼ってください。
- ⑥やわらかく、よく水気を吸う布でデカールをそっと押え、内側の気泡を押し出しながら水分をとります。デカールを貼る場所が凸凹していたり、曲面になっているところは蒸しタオルでデカールを押えてください。しわになった時はナイフの先で切れ目を入れてから押えます。
- ⑦貼ったあとはデカールが乾くまでさわらないようにします。